



人間は死んだら終わり、と人は言う。しかし私は死んだら終わりのような人生を、今歩んでいるのだとは思いたくはない。「何のために生まれ、何のために生きているのか」。この問いを問い続ける人生に「死んだら終わり」かどうかの応えは自ずと知らされてくるものだと思っている。「死んだら終わり」は、ともすると自分勝手な思いに結びつきそうで、空しい人生になりそうな気がしてならない。

真宗では死んだら「浄土へ生まれ往く」のだと説かれている。そしてまたお浄土から南無阿弥陀呼び声となって再び還ってくるのだとも説かれている。後生があるのかどうか、それは「信ずるよりほかに別の子細なきなり」(歎異抄)ではあるが、今の私にとって「信」をいただくということは、何のために生きているのかを問い続けていくことでしかないと思っている。

比べるものがない自分

— テレフォン法話より —

M・S

私が仏教を学びきっかけとなったのは、お寺の人と結婚したからです。私自身はサラリーマン家庭に育ちました。新屋で、お仏壇もなかったので、お寺さんに会う機会には祖父の法事の席くらいでした。

結婚するまでは、お寺と関わることはなくて、お寺というのは観光地にあるもので、お坊さんも一体何をしているのか何にも知りませんでした。そんな私でしたが、せっかくなお寺さんと結婚したので、仏教のことを学んでみたい、と思いました。一年間学校に行かせてもらうこと多くのことを学びました。

今はサラリーマンをしながら、勉強を続けています。

お寺や仏教と関わることは何も無い、そんな人生を生れてから30年くらいは過してきました。そして、仏法に触れ、生活をするようになって数年が経ちました。

自分の中に何か変化はあるだろうか？と自分自身に問いかけました。

先ほどもお話ししましたが、私は今サラリーマンをしています。以前までは、私はほかの人より仕事ができなくてとは思っていません。他の人からどう見られているか、あの人は仕事ができるね。」というまわりの人からの評価が気になっていたんだと思います。人と比べて「より仕事ができるか」よりも「うまくやれているか」とそんなことを自分の物差しとして評価をしていたように思います。

けれど、私は今、そういう「他者との比較」の中に自分がいるのではなく、自分自身が納得できるように生きていきたい、他者と比較してどうこうではなく、自分の行いや行動に責任をもって仕事をしていきたい、そういうことだと思っています。

私たちは阿弥陀様から「あなたを救いたい」と願われています。至るものが平等に救われるように願いをかけられている。「私はそれを 他でもない、あなたが、あなたのままでいられるように願われている」ということだと思っています。

まわりの人からの評価に「いい、つまり 私は仕事のできるいい人だから救われるのではなく、阿弥陀様はどんな私でも、救いた」と願っています。

だから、他者と比較したり、自分が自分のことを認められない、というふうにならぬ、無理をせずに自分と向き合い、受け入れ、背伸びをせずに安心して仕事や生活と向き合いたい。そんなふうに思っています。日常生活の中にある仏法を大切に過ごしていきたいと思っています。とはいえ、まだまだ勉強中の身です。少しづつ進むことがあると、なんで自分は評価してもらえないんだろう、「自分は悪くない、あの人が悪い」とわが身を振り返ることなく発言したりすることもありません。その度に、「こんな自分でも救いたい」と阿弥陀様が願っているのだと心にとめて、思い起したりしています。そして自分自身ともしっかり向き合い、前に進んでいきたいと思っています。

毎月 1日～15日・16日～月末と、月二回に分けて短い法話を流しています。前ページ掲載のM・Sの「比べることのない自分」は、今年2月の前半に流された全文です。

上記の電話番号にかければ、いろんな方の法話を聞くことができます。機会があればぜひ一度聞いてみてください。

今月の掲示板

他力他力と 思っていたが

思っ心は みな自力 森 ひな

妙好人の一人である森ひなさん。他力他力と思っていたその思いが、自力であったと述懐されているのです。

自分の、ひと思いも自分ではない。仏様のおはからいだという。自分のはからいのみきたところに親さま 仏様に遭(あ)えたという喜びを表した言葉です。

—5月の学習会— 参加者 十四名 寺族二名(含む)

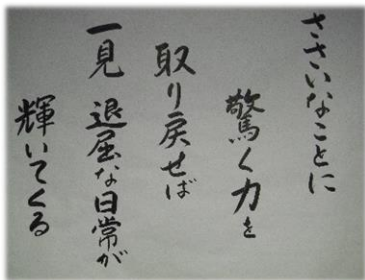
二〇〇五年ごろから始めた勉強会。もうおよそ十五年の月日が流れてしまいました。その間多くの方々にご縁を結んでいただき、皆様の篤い思いを糧に、ここまで続けてくる事ができました。これからも光受寺が続く限り、皆様のご支援をいただきながら続けていきたいと思っております。

○大乘仏教と小乗仏教について …… 若院の法話

○心に響く言葉」を味わう。

日常生活の中での「気づき」を言葉にされたものを幾つか味わっていただき、それぞれ感想を語っていただきました。お話し合いと共感できるものもあつたようで、自身を振り返るきっかけもなつたようです。

一〇の会の発足当時からご参加いただいている「門徒さん」も何名かあつて、住職としてありがたいことだと、心から感謝しております。



光受寺同朋会で上山した折、会館の廊下に掲示してあつた言葉。



改修工事から8年余り。

ずいぶん汚れが目立つようになってきた山門。報徳会を前に業者にお洗濯をと思つていたが、お金もかかることから、ヒマにさせて「ソツソツやってみよう」と思い立った。どこまでできるか不安だったが、思いのほかきれいにできたと思う。天井板と棧の掃除は高いので怖かつた。約一週間もかかつてしまった。

墨のように黒く汚れていました。



雑巾と水だけで仕上げました。



アジサイ見ごろ。

5月中旬から色づき始めたアジサイが、今見ごろを迎えています。

光受寺には山アジサイが多くあります。花の小さいものも多く、見ごたえはないように思えますが、よく見るとなかなか味わいがある花だと思つています。

珍しい品種も多く、約40種類ほどあります。機会がありましたらぜひお越しください。



墨俣桜提もきれいに咲いていますよ。